

**TruPhase の導入(4)**  
—デジタル再生における動作確認(2)—

1. はじめに

前報(3)に引き続き、TruPhase のデジタル再生における動作確認を実施しました。

2. TruPhase のデジタル再生における動作確認方法

接続は P&G のフェーダーと TruPhase を入れ替え、入力は、Brooklyn DAC+からの RCA 入力とし、RCA1 の端子に入力し、出力は RCA 出力をアナログアキュライザー経由で Langevin 6V6pp アンプに入力することで再生を行いました。

すでに P&G のフェーダーで評価の固まっている、次の fidata HFAS1-S10 から USB 経由で Brooklyn DAC+の再生音源を使用し、Brooklyn DAC+の条件設定も既知の条件にしています。

音源としては下記を使用しました。

fidata HFAS1-S10 収納 11.2MHzDSD 音源

[ディスコグラフィアー【2017No.76】](#)

ステレオサウンド社 SSHRB-005

ヨハン・セバスティアン・バッハ：無伴奏チェロ組曲

ヤーノシュ・シュタルケル

fidata HFAS1-S10 収納 MQA

[ディスコグラフィアー【2018No.95】](#)

Universal Music UCCG-40005

アントン・ブルックナー：交響曲第 4 番《ロマンティック》

カール・ベーム指揮ウィーンフィル

CD ドライブより fidata HFAS1-S10 経由再生 CD 音源

[音源の位相チェック実験\(27\)](#)

DECCA UCCD-9823/24

J.S.Bach : Sonatas & Partitas

アルチュール・グルミヨー

Deutsche Schallplatten TKKC 70027

J.S.Bach : Sonatas & Partitas

カール・ズスケ

[音源の位相チェック実験\(29\)](#)

SONY Classical SICC 30087

J.S.Bach : 無伴奏ヴァイオリンソナタ 3 番  
無伴奏ヴァイオリンパルティータ 2 番・3 番  
ヒラリー・ハーン

Anchor Records UZCL-1030

J.S.Bach : 無伴奏ヴァイオリンソナタ 1 番  
無伴奏ヴァイオリンパルティータ 2 番・3 番  
エンリコ・オノフリ

### 3. TruPhase のデジタル再生における動作確認の結果

前報(2)と同様、この場合も、位相反転のトグルスイッチを **NORMAL** の位置にすると音が出ず、**REVERSE** で正常に再生できましたので、以下は **REVERSE** の位置で聴いていきました。また、**Brooklyn DAC+**の位相反転機能も使用しました。

シュタルケルのバッハのチェロ組曲は、11.2MHzDSD の効果により、まるでアナログのように滑らかな音で再生されます。**Brooklyn DAC+**で位相反転しますと、音像がぼやけます。

ベーム指揮ウィーンフィルのブルックナーの交響曲第 4 番は、MQA らしくオーケストラの各パートの位置関係の広がりや奥行き感も出ており、フォルテシモの迫力満点です。**Brooklyn DAC+**で位相反転しますと、定位がはっきりしてきます。

グルミヨールのバッハは、艶のあるグルミヨールのボウイングの様を的確に表現しています。**Brooklyn DAC+**で位相反転しますと、音像がぼやけます。

ズスケのバッハは、これまでの印象では、ややそっけない演奏のように聴こえていましたが、丁寧にじっくりと味わい深い演奏であることが分かりました。**Brooklyn DAC+**で位相反転しますと、音の焦点があってきます。

ヒラリー・ハーンのバッハは、ゆっくり目のテンポでヴィヨームのびやかなボウイングが再現されています。**Brooklyn DAC+**で位相反転しますと、音像がぼやけます。

オノフリのバッハは、ガット弦で自在奔放に弾ききるバッハです。録音が新しく間接音までよく分かります。**Brooklyn DAC+**で位相反転しますと、音像がぼやけます。

### 4. まとめ

fidata 収納のハイレゾ音源および CD の再生において、それぞれの持ち味が十分発揮されました。また、位相の把握も十分に可能でした。

以上

註：

上記の位相反転のトグルスイッチを **NORMAL** の位置にすると音が出ない問題は、その後、メーカーの協力を得て解決しましたので別途報告いたします。